

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3671500613		
法人名	社会福祉法人 白寿会		
事業所名	グループホームよしの		
所在地	徳島県阿波市吉野町柿原字二条146番地		
自己評価作成日	令和5年9月27日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/
----------	-----------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会		
所在地	徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地 県立総合福祉センター3階		
訪問調査日	令和5年10月25日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当ホームは平屋建て3棟で成り立っている。敷地面積、建物共にゆったりとした環境の中、緑に囲まれ、四季折々の草花が咲き、利用者の目を楽しませてくれている。「和」を基調として話しあい信じあい扶けあい温かい生活の場づくりを理念に掲げ、一人ひとりが役割を持ち、互いに支え合える環境作りを心掛けている。日中は施錠せず、開放的な環境のもと自由に散歩などをされている姿を職員が見守っている。オレンジカフェ(認知症カフェ)を開設、また同町の幼稚園、小中学校の訪問、市内高校生や専門学生の介護実習の受け入れもしており地域における福祉の拠点となれるよう努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、静かな田園地帯に位置している。建物は木造であり、木の温もりを感じることができる。同一法人が運営する他サービス事業所が併設し、行事や避難訓練など、連携・協力する体制を整備している。法人の掲げる、「話しあい 信じあい 扶けあい」の考え方を大切に捉え、利用者が明るい雰囲気の中で生活できるよう支援している。利用者一人ひとりのかかりつけ医と連携を図り、月2回の往診を受けたり、24時間対応可能な体制を整備したりするなど、安心・安全な医療の受診を支援している。毎月、利用者家族に向けて、個別の写真入りのお便りを送付するなど、家族との関係性も大切にしている。また、近隣中学・高等学校の体験学習や実習生等も積極的に受け入れるなど、事業所の持つ力を地域に発揮する取り組みも行っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			A棟 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスとしての役割を理解し、独自の理念を掲げ、職員全員が認識できるよう掲示を行い、毎日のミーティングで確認し共有する事でケアに繋げている。	事業所では、法人理念をもとにした、独自の理念を掲げている。理念は、事業所内に掲示したり、職員会議で確認したりして、共有化を図っている。毎年、理念について振り返りも行っている。また、新人研修時にも理念について説明し、日々の実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のイベントに参加したり、オレンジカフェまたボランティアの方々の訪問も定期的により交流を図っている。(コロナ禍において、ここ数年は出来ていない。)	事業所では、散歩の際に、近隣の方と挨拶を交わすなど、顔なじみの関係を築いている。野菜や果物など、差し入れをいただくこともある。また、地域のボランティアや実習生の受入れも積極的に取り組んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	実習生の受け入れを行い人材育成に努めたり、福祉科高校生の体験学習を受け入れる等している。地域住民の方に運営推進会議に参加して頂き、認知症の理解に努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者の状況や日頃の取り組み、問題等を報告している。参加者から、地域の情報や意見を頂きホームの運営やサービスの向上に活かしている。防災に関しても地域の方との情報共有の場としており、協力関係を築けるよう努めている。	2か月に1回、運営推進会議を開催している。令和5年7月より、対面式の会議を再開し、利用者や家族、地域包括支援センター、民生委員、地域の代表者等の出席を得ている。事業所の取り組みを報告し、意見助言等を得つつ、サービスの質の向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護保険課、地域包括支援センター等常に関係を持ち、地域連携会議などの参加をし協力体制を構築している。	事業所では、随時、市の担当者や地域包括支援センターと連絡を取り、事業所の取り組み等に関して報告・相談し、助言を得ている。また、地域包括支援センター主催の地域連携会議に出席し、情報の共有化を図るなど、協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	3か月に1回の委員会の開催と、年に2回以上の事業所内研修で、職員の意識の統一を行っている。身体拘束を行うことでの弊害を理解し、自由に暮らせる開放的な環境作りを行っている。	事業所では、3か月に1回、身体拘束廃止委員会を開催し、拘束の内容や弊害等について周知・理解している。年2回、動画等を活用した研修も行っている。日中は玄関を開放し、利用者の人権に配慮しつつ、自由な暮らしを支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束と同様、年2回以上研修を行い、職員の理解を深め、重要性を認識してもらっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			A棟 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度を利用されている方がいる為、職員も身近に感じている。本年度8月にも成年後見人、選定の手配を、阿波市地域包括の職員と連携し行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、解約時、改定時には十分な説明を口頭、文章を用いて行い、納得していただいた上で同意をいただくようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者、家族とのコミュニケーションを十分取るようにし、要望や意見を気兼ねなく言ってもらえる関係作りに努めている。普段の会話の中で常に要望や意向を引き出すような関わりを心がけている。	事業所では、日ごろの支援のなかで、利用者の意向の把握に努めている。家族等については、毎月、個別の事業所だよりを送付し、電話で利用者の状況を伝えつつ、意見等の把握に努めている。把握した意向等について、職員間で協議・検討し、運営面に反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職務の中で職員の意見に耳を傾けるよう心掛けている。出された意見や提案は話し合いの場を持ち運営に活かしている。	管理者は、日ごろの職務のなかで、職員の意見や提案等を聞き取っている。毎日の朝礼や職員会議等の機会にも、意見等を確認している。毎日、代表者の来訪があり、直接相談することもできる。出された意見は、事業所内のSNS等で共有化を図りつつ、運営面に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の個性を尊重すると共に、努力、功績のあった者にはボーナス等で考慮したり、資格手当もあり職員は向上心を持って働けるよう環境の整備に心掛けている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	資格、勤務年数に応じた研修会に参加し、個人に合わせたスキルアップに努めている。また月1回の勉強会を行うようにし、職員全体のスキルアップも図っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	毎年認知症実践者研修、リーダー研修等外部研修会に参加し、他事業所と意見交換できる機会を作っている。また法人内の事業所とも常に情報共有を行い、日頃のケアに活かしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			A棟 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に生活状態を把握する為、本人、家族と出来るだけ会うようにしている。可能であれば入居前に担当ケアマネージャーと訪問し、今後の生活の不安や希望を聞き取りを受け止めサービスの提供に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の状況もよく聞き要望を十分理解するよう努めている。家族の想いを日頃のケアに反映できるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者、家族の希望や状況に柔軟に対応し、必要に応じて他職種にも相談し状況に合ったサービスを提供できるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介護する人、される人の関係ではなく、お互いの人権を尊重し、共に協力し合い一緒に過ごしながら学んだり、支え合う関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日頃から利用者の様子をこまめに伝えるようにしている。現状を知っていただき家族と共に利用者を支えるための協力関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	病院、理美容院等入居前からの馴染みのある所を利用している。知人の方との関係が途絶えぬよう事前面談に馴染みの方などの聞き取りを行い面会が出来るよう支援している。(コロナ禍でここ数年は出来ていない。)	事業所では、感染症(コロナ等)の防止に努めつつ、家族や友人、知人等の面会を受け入れている。家族等の協力を得て、利用者の馴染みの場所への外出も支援している。また、生花や編み物などの趣味活動も支援し、利用者一人ひとりの馴染みの関係の継続に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	以前からの知り合い、人間関係を把握し、ユニットや居室を検討している。気の合う者同士で過ごせる時間、場所の提供に努め、お互い声を掛けあい支え合える関係作りを支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			A棟 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も気に掛け事業所として必要な情報を提供し、環境の変化にもスムーズに対応できるよう支援している。また利用者間の友人関係を継続できるよう気軽に立ち寄りやすい環境作りに努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居前の生活環境を把握し、希望や思いを汲み取れるよう傾聴に努めている。毎日の表情や会話の内容、行動も気に掛け意向の把握に努めている。	職員は、日ごろの利用者との関わりのなかで、思いや意向等の把握に努めている。意思の表出が困難な場合は、家族やケアマネジャー等から生活歴を伺いつつ、利用者の表情等に着目し、本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	プライバシーに配慮しながら本人、家族、関係者から情報を得るようにしている。入居後も利用者、家族との会話の中から生活の様子把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の生活リズムを大切にサポートしている。職員は毎日の記録とミーティングで状態や有する力など利用者の全体像の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当職員を決め、本人、家族とより良い関係を保ち意見、要望を伺い、希望する生活ができるよう介護計画作成に努めている。また、状態の変化に合わせて随時見直しを行い、支援を行っている。	事業所では、利用者や家族、主治医、関係機関等の意見にもとづく介護計画を作成している。定期的に、モニタリングや見直しを行うとともに、随時、心身状況の変化に応じて計画を見直すなど、現状に即した計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録にはその日の状態や利用者の言動など細かく記録し、全職員で共有している。(介護記録を、介護記録ソフトへ移行中。)		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、家族の希望や現状に即したサービスを提供している。状況に合わせ柔軟な支援を行い、個々の満足度を高めるように努めている。		

自己	外部	項目	A棟		外部評価	
			自己評価	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域ボランティアの来訪や、地域の店舗への外出、散歩時には近隣の方が声を掛けて下さるなど楽しく生活が送れるよう支援している。(コロナ禍においてここ数年は出来ていない。)			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者、家族の希望する医療機関への受診を支援している。症状により家族にも同行していただき診察結果を聞いて頂いている。	事業所では、利用者や家族等の希望するかかりつけ医の受診を支援している。月2回、かかりつけ医の往診がある。専門医を受診する際は、家族等の協力を得ている。地域の医療機関とも連携を図り、適切な医療受診に取り組んでいる。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションと契約し週3回の来訪があり健康管理を行ってくれている。職員は相談や助言を受け、状態変化や異常を早期発見できるように努めている。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には利用者の支援方法に関する情報を医療機関に伝えている。また定期的に見舞ったり、病院関係者と情報交換を行い、退院時にはカンファレンスに参加し、退院後も状況に応じた対応が速やかに実施できるよう努めている。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期に対する対応方針、看取り介護について入居時に説明を行い、意向を確認し同意を頂いている。本人、家族の意向に沿い安心して終末期を過ごして頂ける様、かかりつけ医と密な連絡体制を取っている。職員の知識向上にも取り組んでいる。	事業所では、入居時の段階で、重度化や終末期の指針について、利用者や家族等に説明し、同意を得ている。本人の心身状況の変化に応じて、意向にそうことができるよう、かかりつけ医や関係機関等と方針を共有し、チームで支援に取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルを作成し、連絡体制も整え、緊急時落ち着いて対応できるように勉強している。毎年 救命講習を受けるようしていたが、ここ数年はコロナ禍で出来ていない。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の消防避難訓練は日中、夜間を想定し実施。水害、地震想定も予定している。また、グループホーム単独での避難訓練も実施。地域消防団の協力が得られる体制を整えており、併設施設では食料や物品の備蓄をしている。	年2回、同一法人が運営する併設の他サービス事業所と合同で、避難訓練を実施している。地域性を考慮し、地震・火災・水害等を想定し、避難経路などを確認している。また、災害時における事業継続計画も作成しているが、管理者は、さらなる共有化を図りたいと考えている。	今後は、事業継続計画など、災害時におけるマニュアル等について、全職員に共有化を図るなど、より一層、災害に対する意識の共有化を図ることに期待したい。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			A棟 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	丁寧な言葉がけを心がけ、尊厳ある行動がとれるよう努めている。利用者のプライバシーを損ねないように細心の注意を払い、職員は自己決定を尊重した支援に努めている。	年1回、事業所では、プライバシーや接遇等に関する研修を開催している。職員は、利用者一人ひとりの自己決定を尊重し、無理強いすることなく、さりげない支援に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者が意思表示や自己決定が出来るよう声掛けを行い、希望の生活が送れるよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人一人がその人らしく生活できるよう個々の生活ペースを保てるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日自分で選んで更衣できるよう声掛けをしたり、女性であればお化粧をしていた習慣を継続できるよう支援し生き活きと生活できるよう努めている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	決まったメニューだけでなく複式献立で選んでいたメニューにする時もある。職員と一緒に調理や準備、片付けを行うようにしている。食事形態も利用者の身体状況に合わせて工夫している。	食事は、利用者一人ひとりの食事形態にあわせて調理している。朝食やおやつは、旬の食材や好みを取り入れ、五感刺激を考慮したものを提供している。下準備や配膳、片付けなど、できることは利用者と一緒に取り組み、楽しむことのできる機会を設けている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の状態に合わせて飲み物の種類や形態を工夫したり、食事量を変更したり、料理方法を変えたりし対応している。毎日の摂取量はチェックし体調の変化に気を付けている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の声掛けを行い一人一人に合った用具を使用し、口腔ケアの支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			A棟 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄習慣や排泄リズムを把握し、トイレ誘導を行いトイレでの排泄を支援している。排泄の失敗時には周囲に気付かれない様速やかに対応するなど、羞恥心に配慮している。	事業所では、利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、可能な限りトイレで排泄できるように支援している。声かけの際は、羞恥心等に配慮しつつ、自立に向けた支援に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	利用者に応じ十分な水分補給、食事摂取量の確保また適度な運動を心がけ便秘予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者の希望を尊重し、入浴が出来るよう支援している。入浴を拒まれたり、体調により希望に沿えない時はその人の体調やタイミングを見計らい入浴して頂いている。	事業所では、週2回は入浴することができるよう支援している。入浴拒否がある場合は、不安感等に配慮しつつ、本人本位の支援に取り組んでいる。また、毎日、入浴剤を使用し、入浴を楽しむことができるようにしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	起床、就寝時間を個々に合わせて支援したり、共有空間にソファを設置、自由にくつろぎ、休息を取っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	既往歴、服用薬を把握する為、一覧にしファイルに綴っている。誤薬にも注意し、毎食事に名前、薬確認を行っている。薬変更時には日誌に記録し全職員が確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	得意な事で力を発揮できるよう役割を持ち生活されている。好みのレクリエーションに参加して頂いたり、外食、外出等の支援も行っている。家族からも情報提供や協力を得られるよう努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	少人数での外出や個人での外出、天候、体調に合わせ散歩を行うなど希望に沿った外出支援を行っている。	事業所では、日ごろから、近隣の散歩に出かけるなど、日常的な外出支援に取り組んでいる。気候のよい日には、中庭での外気浴やお茶会などを行っている。感染症の流行後も、安全面に配慮しつつ、花見や菊人形の観賞など、利用者の希望に応じた外出支援に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			A棟 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭の所持を希望される方は家族の了承を得、少額が入った財布を持たせ、金銭を持つことで安心感を持たれている利用者の方もいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を使用する事は可能であり、困難な方には職員がサポートし希望に沿えるようにしている。家族確認のもと以前からの友人との電話や年賀状等手紙のやりとりの支援を行っている。(携帯電話持ち込み可)		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節を感じられるような飾りつけをしたり、利用者作成の環境作品を展示している。ホール・廊下には天窓があり、明るい日差しが入り込む空間となっている。	共用空間は、日当たりがよく、清潔感がある。ソファや畳のスペースを設けるなど、利用者が思いおもいの場所で過ごすことができるようにしている。壁面には、利用者が作った季節の作品を飾るなど、四季を感じる空間づくりを行っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホール、廊下にソファ、戸外にもベンチを設置したり、くつろげる空間づくりを心がけている。思い思いに過ごす事ができる場の提供に努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	テレビ、テーブル、家具など好みに合わせ配置し、居心地良く過ごせるよう工夫している。家族と相談し、馴染みの品を持ち込んでいただくようにしている。	居室には、家具や作品など、利用者にとって馴染みのある物を持ち込んでもらっている。本人の希望に応じて、入口に暖簾をかけるなど、プライバシーにも配慮し、居心地よく過ごすことができるよう支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	共有空間には利用者が分かり易いよう配慮した表示をしている。安全面では居室にマットを敷いたりし安全確保に努めている。		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			B棟 実践状況	C棟 実践状況	実践状況
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスとしての役割を理解し、独自の理念を掲げ、職員全員が認識できるよう掲示を行い、毎日のミーティングで確認し共有する事でケアに繋げている。	地域密着型サービスとしての役割を理解し、独自の理念を掲げ、職員全員が認識できるよう掲示を行い、毎日のミーティングで確認し共有する事でケアに繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	地域のイベントに参加したり、オレンジカフェまたボランティアの方々の訪問も定期的にあり交流を図っている。(コロナ禍において、ここ数年は出来ていない。)	地域のイベントに参加したり、オレンジカフェまたボランティアの方々の訪問も定期的にあり交流を図っている。(コロナ禍において、ここ数年は出来ていない。)	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	実習生の受け入れを行い人材育成に努めたり、福祉科高校生の体験学習を受け入れる等している。地域住民の方に運営推進会議に参加して頂き、認知症の理解に努めている。	実習生の受け入れを行い人材育成に努めたり、福祉科高校生の体験学習を受け入れる等している。地域住民の方に運営推進会議に参加して頂き、認知症の理解に努めている。	
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者の状況や日頃の取り組み、問題等を報告している。参加者から、地域の情報や意見を頂きホームの運営やサービスの向上に活かしている。防災に関しても地域の方との情報共有の場としており、協力関係を築けるよう努めている。	利用者の状況や日頃の取り組み、問題等を報告している。参加者から、地域の情報や意見を頂きホームの運営やサービスの向上に活かしている。防災に関しても地域の方との情報共有の場としており、協力関係を築けるよう努めている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護保険課、地域包括支援センター等常に連携を持ち、地域連携会議などの参加をし協力体制を構築している。	介護保険課、地域包括支援センター等常に連携を持ち、地域連携会議などの参加をし協力体制を構築している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	3か月に1回の委員会の開催と、年に2回以上の事業所内研修で、職員の意識の統一を行っている。身体拘束を行うことでの弊害を理解し、自由に暮らせる開放的な環境作りを行っている。	3か月に1回の委員会の開催と、年に2回以上の事業所内研修で、職員の意識の統一を行っている。身体拘束を行うことでの弊害を理解し、自由に暮らせる開放的な環境作りを行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束と同様、年2回以上研修を行い、職員の理解を深め、重要性を認識してもらっている。	身体拘束と同様、年2回以上研修を行い、職員の理解を深め、重要性を認識してもらっている。	

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			B棟 実践状況	C棟 実践状況	実践状況
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度を利用されている方がいる為、職員も身近に感じている。本年度8月にも成年後見人、選定の手配を、阿波市地域包括の職員と連携し行っている。	制度を利用されている方がいる為、職員も身近に感じている。本年度8月にも成年後見人、選定の手配を、阿波市地域包括の職員と連携し行っている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、解約時、改定時には十分な説明を口頭、文章を用いて行い、納得していただいた上で同意をいただくようにしている。	契約時、解約時、改定時には十分な説明を口頭、文章を用いて行い、納得していただいた上で同意をいただくようにしている。	
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者、家族とのコミュニケーションを十分取るようにし、要望や意見を気兼ねなく言ってもらえる関係作りに努めている。普段の会話の中で常に要望や意向を引き出すような関わりを心がけている。	利用者、家族とのコミュニケーションを十分取るようにし、要望や意見を気兼ねなく言ってもらえる関係作りに努めている。普段の会話の中で常に要望や意向を引き出すような関わりを心がけている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職務の中で職員の意見に耳を傾けるよう心掛けている。出された意見や提案は話し合いの場を持ち運営に活かしている。	職務の中で職員の意見に耳を傾けるよう心掛けている。出された意見や提案は話し合いの場を持ち運営に活かしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の個性を尊重すると共に、努力、功績のあった者にはボーナス等で考慮したり、資格手当もあり職員は向上心を持って働けるよう環境の整備に心掛けている。	個々の個性を尊重すると共に、努力、功績のあった者にはボーナス等で考慮したり、資格手当もあり職員は向上心を持って働けるよう環境の整備に心掛けている。	
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	資格、勤務年数に応じた研修会に参加し、個人に合わせたスキルアップに努めている。また月1回の勉強会を行うようにし、職員全体のスキルアップも図っている。	資格、勤務年数に応じた研修会に参加し、個人に合わせたスキルアップに努めている。また月1回の勉強会を行うようにし、職員全体のスキルアップも図っている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	毎年認知症実践者研修、リーダー研修等外部研修会に参加し、他事業所と意見交換できる機会を作っている。また法人内の事業所とも常に情報共有を行い、日頃のケアに活かしている。	毎年認知症実践者研修、リーダー研修等外部研修会に参加し、他事業所と意見交換できる機会を作っている。また法人内の事業所とも常に情報共有を行い、日頃のケアに活かしている。	

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			B棟 実践状況	C棟 実践状況	実践状況
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に生活状態を把握する為、本人、家族と出来るだけ会うようにしている。可能であれば入居前に担当ケアマネージャーと訪問し、今後の生活の不安や希望を聞き取りを受け止めサービスの提供に努めている。	事前に生活状態を把握する為、本人、家族と出来るだけ会うようにしている。可能であれば入居前に担当ケアマネージャーと訪問し、今後の生活の不安や希望を聞き取りを受け止めサービスの提供に努めている。	
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の状況もよく聞き要望を十分理解するよう努めている。家族の想いを日頃のケアに反映できるようにしている。	家族の状況もよく聞き要望を十分理解するよう努めている。家族の想いを日頃のケアに反映できるようにしている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者、家族の希望や状況に柔軟に対応し、必要に応じて他職種にも相談し状況に合ったサービスを提供できるよう努めている。	利用者、家族の希望や状況に柔軟に対応し、必要に応じて他職種にも相談し状況に合ったサービスを提供できるよう努めている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介護する人、される人の関係ではなく、お互いの人権を尊重し、共に協力し合い一緒に過ごしながら学んだり、支え合う関係を築いている。	介護する人、される人の関係ではなく、お互いの人権を尊重し、共に協力し合い一緒に過ごしながら学んだり、支え合う関係を築いている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日頃から利用者の様子をこまめに伝えるようにしている。現状を知っていただき家族と共に利用者を支えるための協力関係を築いている。	日頃から利用者の様子をこまめに伝えるようにしている。現状を知っていただき家族と共に利用者を支えるための協力関係を築いている。	
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	病院、理美容院等入居前からの馴染みのある所を利用している。知人の方との関係が途絶えぬよう事前面談に馴染みの方などの聞き取りを行い面会が出来るよう支援している。(コロナ禍でここ数年は出来ていない。)	病院、理美容院等入居前からの馴染みのある所を利用している。知人の方との関係が途絶えぬよう事前面談に馴染みの方などの聞き取りを行い面会が出来るよう支援している。(コロナ禍でここ数年は出来ていない。)	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	以前からの知り合い、人間関係を把握し、ユニットや居室を検討している。気の合う者同士で過ごせる時間、場所の提供に努め、お互い声を掛けあい支え合える関係作りを支援している。	以前からの知り合い、人間関係を把握し、ユニットや居室を検討している。気の合う者同士で過ごせる時間、場所の提供に努め、お互い声を掛けあい支え合える関係作りを支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			B棟 実践状況	C棟 実践状況	実践状況
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も気に掛け事業所として必要な情報を提供し、環境の変化にもスムーズに対応できるよう支援している。また利用者間の友人関係を継続できるよう気軽に立ち寄りやすい環境作りに努めている。	退居後も気に掛け事業所として必要な情報を提供し、環境の変化にもスムーズに対応できるよう支援している。また利用者間の友人関係を継続できるよう気軽に立ち寄りやすい環境作りに努めている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居前の生活環境を把握し、希望や思いを汲み取れるよう傾聴に努めている。毎日の表情や会話の内容、行動も気に掛け意向の把握に努めている。	入居前の生活環境を把握し、希望や思いを汲み取れるよう傾聴に努めている。毎日の表情や会話の内容、行動も気に掛け意向の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	プライバシーに配慮しながら本人、家族、関係者から情報を得るようにしている。入居後も利用者、家族との会話の中から生活の様子の把握に努めている。	プライバシーに配慮しながら本人、家族、関係者から情報を得るようにしている。入居後も利用者、家族との会話の中から生活の様子の把握に努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の生活リズムを大切にサポートしている。職員は毎日の記録とミーティングで状態や有する力など利用者の全体像の把握に努めている。	個々の生活リズムを大切にサポートしている。職員は毎日の記録とミーティングで状態や有する力など利用者の全体像の把握に努めている。	
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当職員を決め、本人、家族とより良い関係を保ち意見、要望を伺い、希望する生活ができるよう介護計画作成に努めている。また、状態の変化に合わせて随時見直しを行い、支援を行っている。	担当職員を決め、本人、家族とより良い関係を保ち意見、要望を伺い、希望する生活ができるよう介護計画作成に努めている。また、状態の変化に合わせて随時見直しを行い、支援を行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録にはその日の状態や利用者の言動など細かく記録し、全職員で共有している。(介護記録を、介護記録ソフトへ移行中。)	個別記録にはその日の状態や利用者の言動など細かく記録し、全職員で共有している。(介護記録を、介護記録ソフトへ移行中。)	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、家族の希望や現状に即したサービスを提供している。状況に合わせて柔軟な支援を行い、個々の満足度を高めるように努めている。	本人、家族の希望や現状に即したサービスを提供している。状況に合わせて柔軟な支援を行い、個々の満足度を高めるように努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			B棟 実践状況	C棟 実践状況	実践状況
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域ボランティアの来訪や、地域の店舗への外出、散歩時には近隣の方が声を掛けて下さるなど楽しく生活が送れるよう支援している。(コロナ禍においてここ数年は出来ていない。)	地域ボランティアの来訪や、地域の店舗への外出、散歩時には近隣の方が声を掛けて下さるなど楽しく生活が送れるよう支援している。(コロナ禍においてここ数年は出来ていない。)	
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者、家族の希望する医療機関への受診を支援している。症状により家族にも同行していただき診察結果を聞いて頂いている。	利用者、家族の希望する医療機関への受診を支援している。症状により家族にも同行していただき診察結果を聞いて頂いている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションと契約し週3回の来訪があり健康管理を行ってくれている。職員は相談や助言を受け、状態変化や異常を早期発見できるように努めている。	訪問看護ステーションと契約し週3回の来訪があり健康管理を行ってくれている。職員は相談や助言を受け、状態変化や異常を早期発見できるように努めている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には利用者の支援方法に関する情報を医療機関に伝えている。また定期的に見舞ったり、病院関係者と情報交換を行い、退院時にはカンファレンスに参加し、退院後も状況に応じた対応が速やかに実施できるよう努めている。	入院時には利用者の支援方法に関する情報を医療機関に伝えている。また定期的に見舞ったり、病院関係者と情報交換を行い、退院時にはカンファレンスに参加し、退院後も状況に応じた対応が速やかに実施できるよう努めている。	
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期に対する対応方針、看取り介護について入居時に説明を行い、意向を確認し同意を頂いている。本人、家族の意向に沿い安心して終末期を過ごして頂ける様、かかりつけ医と密な連絡体制を取っている。職員の知識向上にも取り組んでいる。	終末期に対する対応方針、看取り介護について入居時に説明を行い、意向を確認し同意を頂いている。本人、家族の意向に沿い安心して終末期を過ごして頂ける様、かかりつけ医と密な連絡体制を取っている。職員の知識向上にも取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルを作成し、連絡体制も整え、緊急時落ち着いて対応できるように勉強している。毎年救命講習を受けるようしていたが、ここ数年はコロナ禍で出来ていない。	緊急時のマニュアルを作成し、連絡体制も整え、緊急時落ち着いて対応できるように勉強している。毎年救命講習を受けるようしていたが、ここ数年はコロナ禍で出来ていない。	
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の消防避難訓練は日中、夜間を想定し実施。水害、地震想定も予定している。また、グループホーム単独での避難訓練も実施。地域消防団の協力が得られる体制を整えており、併設施設では食料や物品の備蓄をしている。	年2回の消防避難訓練は日中、夜間を想定し実施。水害、地震想定も予定している。また、グループホーム単独での避難訓練も実施。地域消防団の協力が得られる体制を整えており、併設施設では食料や物品の備蓄をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			B棟 実践状況	C棟 実践状況	実践状況
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	丁寧な言葉かけを心がけ、尊厳ある行動がとれるよう努めている。利用者のプライバシーを損なわないよう細心の注意を払い、職員は自己決定を尊重した支援に努めている。	丁寧な言葉かけを心がけ、尊厳ある行動がとれるよう努めている。利用者のプライバシーを損なわないよう細心の注意を払い、職員は自己決定を尊重した支援に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者が意思表示や自己決定が出来るよう声掛けを行い、希望の生活が送れるよう支援している。	利用者が意思表示や自己決定が出来るよう声掛けを行い、希望の生活が送れるよう支援している。	
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人一人がその人らしく生活できるよう個々の生活ペースを保てるよう支援している。	利用者一人一人がその人らしく生活できるよう個々の生活ペースを保てるよう支援している。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日自分で選んで更衣できるよう声掛けをしたり、女性であればお化粧をしていた習慣を継続できるよう支援し生き活きと生活できるよう努めている。	毎日自分で選んで更衣できるよう声掛けをしたり、女性であればお化粧をしていた習慣を継続できるよう支援し生き活きと生活できるよう努めている。	
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	決まったメニューだけでなく複式献立で選んでいただいたメニューにする時もある。職員と一緒に調理や準備、片付けを行うようにしている。食事形態も利用者の身体状況に合わせて工夫している。	決まったメニューだけでなく複式献立で選んでいただいたメニューにする時もある。職員と一緒に調理や準備、片付けを行うようにしている。食事形態も利用者の身体状況に合わせて工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の状態に合わせて飲み物の種類や形態を工夫したり、食事量を変更したり、料理方法を変えたりし対応している。毎日の摂取量はチェックし体調の変化に気を付けている。	利用者の状態に合わせて飲み物の種類や形態を工夫したり、食事量を変更したり、料理方法を変えたりし対応している。毎日の摂取量はチェックし体調の変化に気を付けている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の声掛けを行い一人一人に合った用具を使用し、口腔ケアの支援を行っている。	毎食後の声掛けを行い一人一人に合った用具を使用し、口腔ケアの支援を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			B棟 実践状況	C棟 実践状況	実践状況
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄習慣や排泄リズムを把握し、トイレ誘導を行いトイレでの排泄を支援している。排泄の失敗時には周囲に気付かれない様速やかに対応するなど、羞恥心に配慮している。	個々の排泄習慣や排泄リズムを把握し、トイレ誘導を行いトイレでの排泄を支援している。排泄の失敗時には周囲に気付かれない様速やかに対応するなど、羞恥心に配慮している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	利用者に応じ十分な水分補給、食事摂取量の確保また適度な運動を心がけ便秘予防に努めている。	利用者に応じ十分な水分補給、食事摂取量の確保また適度な運動を心がけ便秘予防に努めている。	
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者の希望を尊重し、入浴が出来るよう支援している。入浴を拒まれたり、体調により希望に沿えない時はその人の体調やタイミングを見計らい入浴して頂いている。	利用者の希望を尊重し、入浴が出来るよう支援している。入浴を拒まれたり、体調により希望に沿えない時はその人の体調やタイミングを見計らい入浴して頂いている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	起床、就寝時間を個々に合わせて支援したり、共有空間にソファを設置、自由にくつろぎ、休息を取っている。	起床、就寝時間を個々に合わせて支援したり、共有空間にソファを設置、自由にくつろぎ、休息を取っている。	
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	既往歴、服用薬を把握する為、一覧にしファイルに綴っている。誤薬にも注意し、毎食事に名前、薬確認を行っている。薬変更時には日誌に記録し全職員が確認している。	既往歴、服用薬を把握する為、一覧にしファイルに綴っている。誤薬にも注意し、毎食事に名前、薬確認を行っている。薬変更時には日誌に記録し全職員が確認している。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	得意な事で力を発揮できるよう役割を持ち生活されている。好みのレクリエーションに参加して頂いたり、外食、外出等の支援も行っている。家族からも情報提供や協力を得られるよう努めている。	得意な事で力を発揮できるよう役割を持ち生活されている。好みのレクリエーションに参加して頂いたり、外食、外出等の支援も行っている。家族からも情報提供や協力を得られるよう努めている。	
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	少人数での外出や個人での外出、天候、体調に合わせ散歩を行うなど希望に沿った外出支援を行っている。	少人数での外出や個人での外出、天候、体調に合わせ散歩を行うなど希望に沿った外出支援を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			B棟 実践状況	C棟 実践状況	実践状況
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭の所持を希望される方は家族の了承を得、少額が入った財布を持たれ、金銭を持つことで安心感を持たれている利用者の方もいる。	金銭の所持を希望される方は家族の了承を得、少額が入った財布を持たれ、金銭を持つことで安心感を持たれている利用者の方もいる。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を使用する事は可能であり、困難な方には職員がサポートし希望に沿えるようにしている。家族確認のもと以前からの友人との電話や年賀状等手紙のやりとりの支援を行っている。(携帯電話持ち込み可)	電話を使用する事は可能であり、困難な方には職員がサポートし希望に沿えるようにしている。家族確認のもと以前からの友人との電話や年賀状等手紙のやりとりの支援を行っている。(携帯電話持ち込み可)	
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節を感じられるような飾りつけをしたり、利用者作成の環境作品を展示している。ホール・廊下には天窓があり、明るい日差しが入り込む空間となっている。	季節を感じられるような飾りつけをしたり、利用者作成の環境作品を展示している。ホール・廊下には天窓があり、明るい日差しが入り込む空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホール、廊下にソファ、戸外にもベンチを設置したり、くつろげる空間づくりを心がけている。思い思いに過ごす事ができる場の提供に努めている。	ホール、廊下にソファ、戸外にもベンチを設置したり、くつろげる空間づくりを心がけている。思い思いに過ごす事ができる場の提供に努めている。	
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	テレビ、テーブル、家具など好みに合わせ配置し、居心地良く過ごせるよう工夫している。家族と相談し、馴染みの品を持ち込んでいただくようにしている。	テレビ、テーブル、家具など好みに合わせ配置し、居心地良く過ごせるよう工夫している。家族と相談し、馴染みの品を持ち込んでいただくようにしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	共有空間には利用者が分かり易いよう配慮した表示をしている。安全面では居室にマットを敷いたりし安全確保に努めている。	共有空間には利用者が分かり易いよう配慮した表示をしている。安全面では居室にマットを敷いたりし安全確保に努めている。	